

研究ノート

三重県大台町におけるコキクガシラコウモリ *Rhinolophus cornutus* の出産 哺育集団の記録

First record of a maternity colony of the Japanese little horseshoe bat, *Rhinolophus cornutus*,
from Odai, Mie Prefecture, central Japan

井元俊介

〒519-2633 三重県多気郡大台町久豆199 大杉谷自然学校

キーワード：洞穴性コウモリ，出産哺育場所，ねぐら

(2021年9月30日 受付)

Shunsuke Imoto*

Osugidani Nature School

Kuzu 199, Odai, Mie 519-2633, Japan

*corresponding author: imoto@osugidani.jp

Abstract

A maternity colony of Japanese little horseshoe bats, *Rhinolophus cornutus*, was confirmed in a natural cave in Odai, Mie Prefecture, in June 2021. The colony consisted of at least 584 adults and 47 infants. This is the first record of the maternity colony of *R. cornutus* from Mie Prefecture.

Key words: cave-dwelling bat, nursery roost, day roost

はじめに

コキクガシラコウモリ *Rhinolophus cornutus* は，コウモリ目キクガシラコウモリ科に属する小型コウモリで，北海道，本州，四国，九州と沖永良部島以北の島嶼に分布する日本固有種である（Sano and Armstrong, 2015）．本種は洞穴を主なねぐらとし，自然洞窟のほか，廃坑，隧道などをねぐらとし（Sano and Armstrong, 2015），三重県内でも平地から山地にかけて広く分布している（佐野，2016）．本種は，三重県版のレッドリストでは準絶滅危惧種（NT）にランクされている（三重県農林水産部みどり共生推進課，2015）．

三重県におけるコウモリ類の確認記録をまとめた資料（佐野，2016）によると，本種のねぐらはこれまで

37か所記録されているが，出産哺育集団についての記録はない．三重県内の本種の出産哺育集団に関わりのある記録としては，伊勢市内の自然洞窟において1961年に「約3000匹のコキクガシラコウモリの子と思われるのがぶらさがって」いたとする報告（三重県立伊勢高等学校生物クラブ，1962）があるものの，本種の幼獣であるとは断定されていない．また，1965年と1966年に同じ自然洞窟で調査を行った沢田（1976，1982）も「キクガシラコウモリ *Rhinolophus ferrumequinum*，コキクガシラコウモリ，ユビナガコウモリ *Miniopterus fuliginosus*，モモジロコウモリ *Myotis macrodactylus* の4種が混棲して10000頭以上の大コロニーがつくられていた」，「キクガシラコウモリ，コキクガシラコウモリ，ユビナガコウモリおよびモモジロコウモリが5000

～8000頭集って大コロニーを形成」していたと報告しているが、本種の幼獣の所在については明確な記載はない。

筆者は三重県大台町の自然洞窟において、コキクガシラコウモリの出産哺育集団を確認したので、三重県における初めての正式な確認記録として報告する。

本文に先立ち、終始ご指導くださり、文献を提供くださった三重県総合博物館の佐野 明博士と現地調査にご協力くださった川竹 守氏に深謝する。

確認時の状況

コキクガシラコウモリの出産哺育集団が確認されたのは、三重県大台町西部の自然洞窟である（図1）。標高はおよそ500 mで、周囲はスギが優占する二次林に囲まれている。この洞穴は洞口から約4 mのところまで枝分かかれし、奥部に向かって右側の奥行は約15 m、左側は約6 mであり、洞床から天井までの高さは1.5～7 m程度である。

筆者は2021年6月13日午前11時40分頃、洞口から入って右側最奥部の広い天井部でコキクガシラコウモリの

集団を確認した（図2）。その時点で既に数頭が飛翔し始めたため、急いで記録写真を数枚撮り、その場を離れた。その後、撮影した写真を確認したところ、この集団はコキクガシラコウモリの成獣（一部亜成獣を含むと思われる）584頭、幼獣47頭、ユビナガコウモリ23頭からなることが確認できた。また、コキクガシラコウモリでは、出産直前と思われる腹部が大きく膨れた個体や、出産直後で胎盤がまだついている個体も複数確認できたため、出産哺育期の初期であり、幼獣の個体数はさらに増えるものと思われた。ユビナガコウモリについては、幼獣は確認できなかった。

おわりに

現在、コウモリ類の生息環境は、自然災害や開発による生息洞窟の破壊及び消失、安全対策としての洞口閉塞、内部環境や周辺の変化などにより危機的状況に瀕している（佐野，2021）。今回、コキクガシラコウモリの出産哺育集団が確認された自然洞窟は、現在、三重県内で見つかっている唯一の出産哺育場所であり、この貴重な場所が知られずに開発などの危機に瀕しな

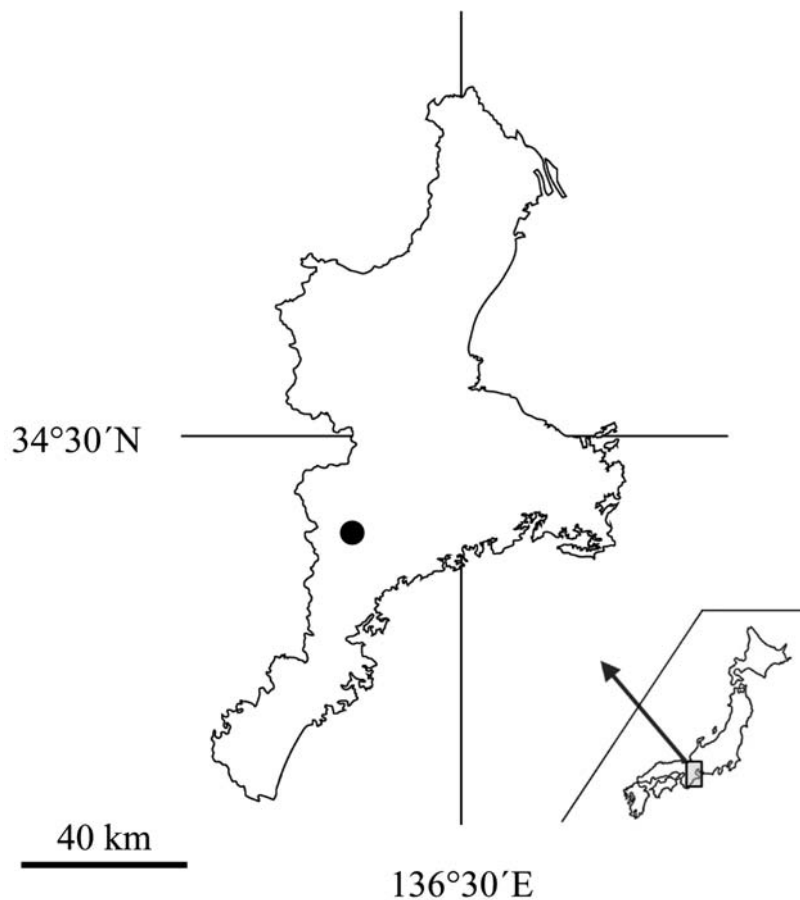


図1. コキクガシラコウモリの出産哺育集団を確認した地点(●)。

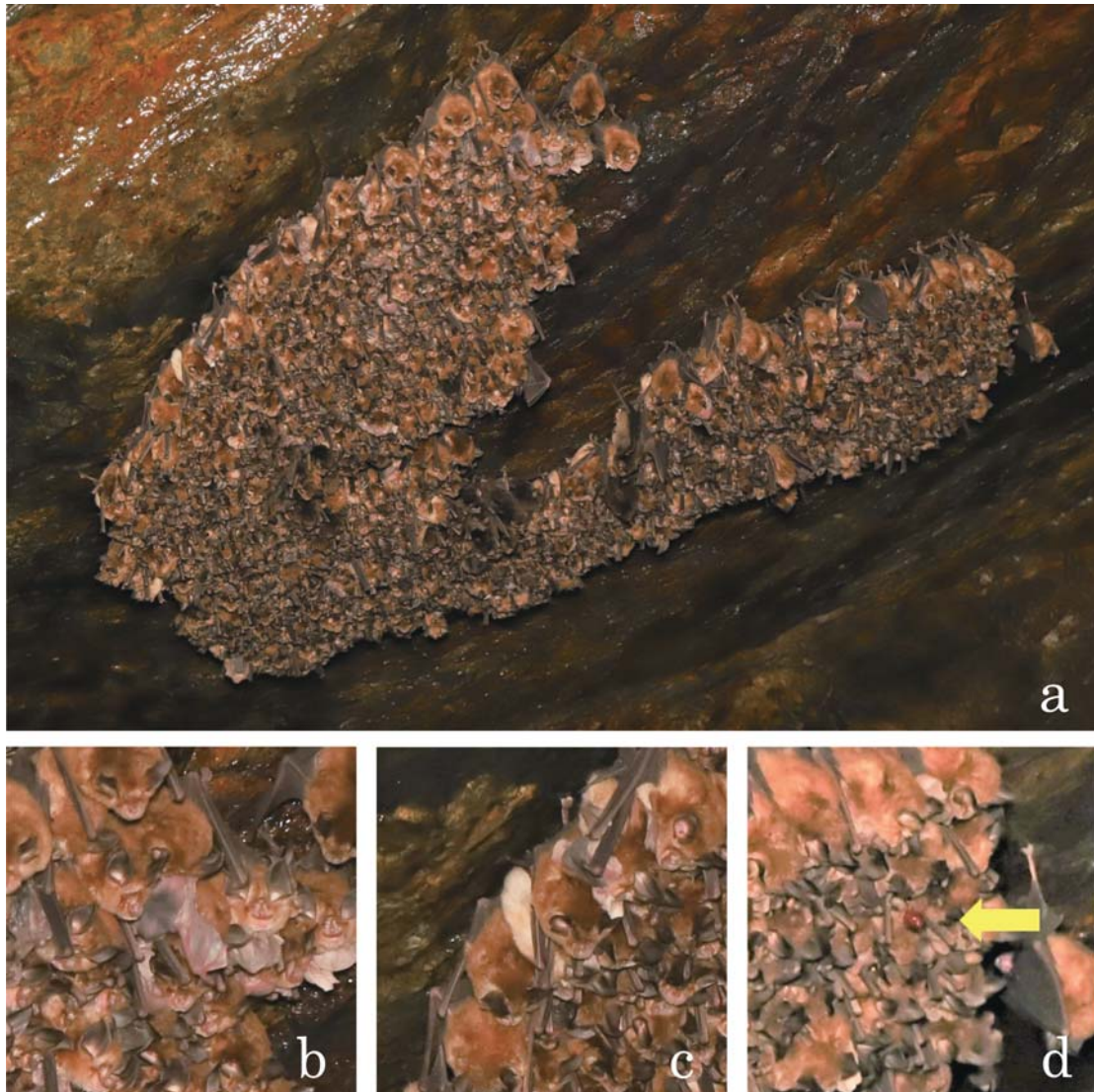


図2. 三重県大台町の自然洞窟で確認されたコキクガシラコウモリの出産哺育集団（一部ユビナガコウモリを含む）。
a, 集団全体；b, コキクガシラコウモリの幼獣；c, 出産直前と思われる妊娠個体；d, 胎盤（矢印）。

いよう、また入洞者によるかく乱によってコウモリがいなくならないよう、見守り、大切に保全していく必要がある。

引用文献

- 三重県農林水産部みどり共生推進課（編）. 2015. 三重県レッドデータブック2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～. 757pp. 三重県農林水産部みどり共生推進課，津.
- 三重県立伊勢高等学校生物クラブ. 1962. 鷺嶺水穴の調査報告 地形と生物の分布と季節的消長. 45pp. 三重県立伊勢高等学校，伊勢.
- 佐野 明. 2016. 三重県におけるコウモリ類の分布記

録. 三重県総合博物館館紀要，2: 9-29.

佐野 明. 2021. 三重県におけるコウモリ生息洞穴の現状. 三重県総合博物館館紀要，7: 5-16.

Sano, A. and Armstrong, K.N. 2015. *Rhinolophus cornutus* Temminck, 1835. In (S.D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M.A. Iwasa, D. Fukui and T. Saitoh, eds.) The Wild Mammals of Japan, Second Edition. pp.61-62. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.

沢田 勇. 1976. 条虫相からみた日本産キクガシラコウモリ科コウモリの分布に関する2, 3の知見. 動物学雑誌，85: 140-155.

沢田 勇. 1982. 三重県下における洞窟棲コウモリの内部寄生虫相. 動物分類学雑誌，24: 47-57.